

木次町地域自主組織連絡協議会と市長との意見交換会

【日時】：令和 6 年 9 月 30 日（月） 13：30～15：00

【会場】：木次総合センター 会議室

【参加者数】：9 人（会長等と市長）

□意見交換

～各地域自主組織の要望等を一問一答で市長が答えるのではなく、地域課題等を各会長が意見交換する中で市長も意見する形式で行った。～

八日市地域づくりの会

：木次町内の公園の遊具が古く撤去されたりして現在はほぼない状況である。

以前は「健康の森」にローラー滑り台やフィールドアスレチックがあったが現在は無い。親子で遊べるような公園も整備されてないがいかが考えられるか。

新市いきいき会

：例年、木次地区 4 自主組織（八日市・三新塔・新市・下熊谷）合同で小学生の夏休み体験活動キャンプおこなっている。第 1 回目は「健康の森」のバンガローを貸し切り宿泊し 40 人くらい参加した。バーベキューやレクリエーションを行ったが遊具がなく時間が持たないので「健康の森」での開催はやめた。次の年は下熊谷の烏帽子掛け（えぼしかけ）へ行った。カタクリを植えたり整備されている。以降、サンレイクに変更した。本来は地元の施設を使いたい。健康の森は大人のキャンプなど年間を通して利用がある。トイレの整備を要望されている。実際に使えるのはテニスコートだけでアーチェリーもできない。地域資源として活用できるはず。

斐伊地域づくり協議会

：以前も斐伊グラウンドの遊具がどんどんなくなっている話をした。コトリエットに少し遊具があるが、市内で気軽に小さな子どもを連れて行ける場所がない。近隣では仁多や出雲か。健康の森はキャンプ中心の施設。尺の内の道の駅整備はどのような計画か。道の駅整備に併せ遊具等があり低学年の子どもを連れて気軽に行ける場所になるとよい。

三新塔あきば協議会

：先日久しぶりに木次公園に行ってみた。以前に比べると残念に思った。見晴らしは良いが来る人もいないのでは。三新塔地区からすると昔から親しまれてきた公園であり復活できればと思う。費用は掛かるかもしれないが要望等していくことも必要かと思う。

下熊谷ふれあい会

：自分は民生委員も務めており年に 1 回町内遊具点検を行っている。毎年使えなくなっている遊具が増えるのが実態。三日市団地の公園に多く遊具があり充実していると思っていたが今年は使えなくなっていた。毎年使用禁止のテープが増え遊具を撤去し更地になっていく。子どもはゲームしかないのか。雲南市＝自然がいっぱい＝遊ぶところがいっぱいというイメージがあるがそうではない。

温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」

：温泉地区は壇山という公園が以前はあった。PTA が中心でフィールドアスレチックを作っていたが、道路改良により使えなくなった。各集落に公園はあるが子どもがいないところは使わない。子どもがいる集落は遊具を塗装したり、民生委員さんに点検してもらっている。旧温泉小学校にも遊具はあるがおんせんキャンパスに通う子が使うには幼稚な遊具。年3回草刈りするが使っている形跡はない。遠足などに利用出来るので木次地区の方に使ってもらえればと思う。木次町内に核となるような遊具のある公園があるといい。

地域自主組織 日登の郷

：農村総合モデル事業で設置した遊具がある。町が設置し管理は地元である。公園といえども様々な経緯で設置されており整理が必要と思う。何か所も作るより町内に1か所作り管理をしっかりとすべきでは。

西日登振興会

：日登と同じような遊具があり学校の敷地内にもあった。毎年点検と修繕に経費がかかっていたが地域で支出し遊具を撤去した。トイレも残っている。小学校から遊具を寄贈してもらえないかと言われているが、最近の遊具は高価ですぐには設置できない。あちこちにあるよりはどこか1か所にあるのがふさわしい。旧西日登幼稚園に遊具があるが使用にリスクがある。保護者から使いたいと問い合わせあるが使用不可と伝えている。遊具修繕等を行い使えるようになるといい。

市 長)

：公園といっても様々な種類の公園がある。市内では都市公園として大東の丸子山公園、加茂中央公園などがある。農村公園や観光施設、健康の森など遊具のある場所としては他に学校がある。一概に子どもの遊び場、遊具のある施設とはいえず異なる形態である。全体の整理を進めていてまとめつつある。

都市公園はしっかり管理していくもの。小学校に多くは設置できないが最低限必要な6種類くらいの遊具を維持、修繕、更新、撤去を3年くらいかけて取り組む。

観光施設は様々でどこまで整備するか個別に議論するしかない。遊具を整備し誘客に結びつくのか一概に言えない。誘客のための施設として必要な整備を行うが基本は地元のためではない。

農村公園の整備には手がまわらず、地域で利用されなければ撤去するしかないと考える。

きすき道の駅整備では屋根付きの広場へそれなりのもの（遊具）を設置していく。どのような遊具を置くかはまだ決まっていない。木次公園や他の公園も同様だが、全て行政での対応は難しい。地元で管理していくのが今後の流れではないか。要望は多いが非常に予算がかかる。最低限学校の遊具は確保したい。地域の子どもが遊ぶのはまず小学校だろう。小学校で味わえない遊具は都市公園さらに観光施設。健康の森はアウトドア利用が非常に多いとの事、今後どのような利用をするかは検討する必要あり。

新市いきいき会

：様々な公園がある。かつては子どもが多く空き地などどこでも遊具があり宅地分譲すると公園が必ずあった。現在は子どもが少なく管理・責任はどうするのかと考えると厳しい。今は連れていく時代。

斐伊地域づくり協議会

：子育てするなら雲南市。子育て世代の保護者は遊べる場所を望んでいる。ネットで検索して行く。城名樋山もぜひ整備してほしい。

次に防災について・・・地域で事情が違う。ハザードマップによると指定避難所が浸水区域ではいかがかという課題もある。能登のような豪雨災害があってもいけない。早めの避難を呼びかけ指定避難所だけでなく避難できる場所を地域で決めるしかない。近年は請川・案内川の合流地点があと50センチ～1メートルでオーバーフローしそうだった。去年は水門を閉められた。何か方策はないかと心配している

八日市地域づくりの会

：ハザードマップ上は八日市交流センター2～5メートル浸水、八日市は3分の1くらいの地域が5メートル、その他が2～5メートルの浸水区域でありどこに避難すればいいのか。木次中学校・木次総合センター・木次体育館へ避難するにも久野川を渡らないといけない。旧市役所跡地の場所に大きな避難所も兼ねた施設があればと思う。将来国スポの関連で木次の野球場もソフトボールの会場が予定され控室など必要であろうし避難所を兼ねた施設整備を実施してもらえないか。

新市いきいき会

：市内交流センターで浸水の恐れのないところは、日登と温泉だけではないか。浸水するところが多い。

温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」

：温泉地区は面積が広く避難は交流センターがメインだが、湯村地区は清嵐荘、槻の屋は伝習館。平田は温泉交流センターとしている。先日は避難指示が出なくても避難された方があった。独居の方が心細いから避難されるが夜の避難はしないよう伝えている。田舎になるほど避難することへ羞恥心がある。羞恥心を取り除かないと避難してもらえない。意識改革をする必要あり。避難時食料の課題。避難時には1日程度の食事や毛布は持ってくるよう周知している。独居高齢者を連れて伝習館へ行くまでに転倒など事故があった際に責任はどうなるのか。総合センターに確認したが、避難指示に関係なく保険等による補償はないとのこと。高齢者の親族に念書をとる必要があると思った。

新市いきいき会

：避難中に事故にあう可能性はある。過去に要支援者名簿作成の際、支援する側の補償について意見があった。人助けして事故にあい責任を追及される論を言い出したら共助などの関係保てない。実際に自宅から避難中に亡くなられた方もある。

三新塔あきば協議会

：災害時に人助けをした際事故にあった場合に対応する保険はないと思う。

西日登振興会

：人権学習も兼ねて防災訓練を行った。西日登交流館裏の水谷川があふれたら交流センターは被害を受けるだろうと話していた。

有事の際に集約型の消防機庫の提案が市からあって6年になる。そうした施設が整備されると団員確保もしやすい。地域として有事の際には消防団員にお世話になるので施設整備を市でお願いしたい。

市 長)

：雲南市内はハザードマップで浸水区域・イエローゾーン・レッドゾーンなど土砂災害警戒区域に掛かってないところを探す方が難しい。内水氾濫を防ぐため斐伊川３点セットで斐伊川の河床を下げるしかない。放水路ができて以来斐伊川は水位が１メートル位下がっており、斐伊川に繋がる河川の内水も流れやすくなっている。令和３年豪雨災害時も一旦アスパルに避難してもらったが、状況が変わり別の場所へ避難してもらった。水害だけでなく地震の場合には現在の指定避難所だけでは避難者があふれるため状況により対応していくしかない。そのためには組織体制が重要と思う。避難意識の啓発や災害について考えることが重要。

避難を支援した際の責任に関しては災害時に業務上の責任があるかないかで分かれると思う。東日本大震災時の学校の先生が避難判断を間違えたことで訴えられたことはあるが、善意で車に乗せて一緒に流された人の責任は問われていない。緊急時の救助活動は責任を心配する必要はないと思う。最終的に訴訟となれば市が表に立たざるを得ない。賠償の能力があるのは市だけ。消防機庫の件について本日は詳細の回答は控えたい。消防団員の協力には感謝をしている。

旧市役所庁舎跡地の嵩上げは費用がとてもかかる。跡地の将来的な活用については未定。八日市地域で災害状況の変化により避難先等を議論し考えておくことが必要。

八日市地域づくりの会

：町部は浸水する、町部以外は山林に近くレッドゾーンに囲まれている

地域自主組織 日登の郷

：早めの避難をとのことだが市からもう少し具体の情報が欲しい。

市 長)

：将来予測は非常に難しい。気象庁の予報を見ながら考えている。令和３年７月豪雨の際は１時間で急激に降った。河川の上昇は上流の水位変化によりある程度予想できるが、緊急時において正確な情報を伝えるのは非常に難しい。ケーブルテレビのポテカや気象庁のホームページが参考になる。

地域自主組織 日登の郷

：その情報をどのように活用するかではないか。

新市いきいき会

：雲南夢ネットにより気象関係の情報を確認することができる。先日防災研修においてケーブルテレビの河川カメラや河川水位の確認方法を講師なしで行った。行政は情報を出しているが、それを市民が掴んでいないことが課題である。気象関係のアプリなど判断基準のツールはかなりある。

市 長)

：これとこれを見てくださいと発信はできる。

地域自主組織 日登の郷

：情報を確認していても、どの段階で避難行動をしていいかわからない。

新市いきいき会

：安心するためにも情報を集めれば判断材料となる。

八日市地域づくりの会

：令和３年７月豪雨災害時に久野川の水位が急上昇し、木次小からそのような場合どうしたらよ

いかと後日聞かれた。

斐伊地域づくり協議会

：警戒レベル3（高齢者等避難）の段階で職員が集まるという地域自主組織もあるとの事、斐伊は避難者があることを意識していなかった。

温泉地区地域自主組織「ダム湖の郷」

：令和3年7月豪雨災害時にはあちこちが通行止めでどこが通れるかわからなかった。災害時有効であるドローンを今後活用する計画があるのか。

市長）

：市役所にはドローンが2台、オペレーターも10人程度いる。今年度消防署でも導入した。飛べる距離、天候に影響されるので万能ではないが人が立ち入れないところの調査に使う体制になっている。令和3年の豪雨災害調査にも被災状況把握、災害測量のため業者へ依頼し活用した。最近ヘリコプターもすぐ来るようになった。市の道路状況も県のホームページに自動連携掲載するようになっているので活用頂きたい。

八日市地域づくりの会

：う回路の有無など地域の道を把握しているかどうかが重要と令和3年7月災害時に感じた。

地域自主組織「ダム湖の郷」

：温泉地内の集落でLINEグループを構築しており情報が共有され有効だった。

八日市地域づくりの会

：LINEの活用は有効と思うが自治会内全員となると難しい。

新市いきいき会

：公式LINEは災害時に活用するには有効なツールである。

八日市地域づくりの会

：地域円卓会議の資料で三刀屋町一宮地区の取り組み資料をみて驚いた。ここまでの事を地域自主組織でやらないといけないのかと。能登半島地震をみても地域自主組織として何が出来て何をすべきなのか考えないといけないと感じた。

新市いきいき会

：これからの地域自主組織のあり方が気になっている。地域福祉、防災、地域振興など課題は多い。「地域と行政の協働のまちづくりに関する基本協定書」を意識しすぎるとなんでもやることとなる。地域事情が似ている下熊谷、三新塔、八日市、新市の地域自主組織は毎月集まり共通する課題に対し今後どうしていくのか話し合っている。今後合同で事業を行うことも有効と考える。将来的には4つの地域自主組織が合併も視野にしていけるべきか。それぞれ地域課題が多く地域自主組織の運営もたいへんと感じている。

八日市地域づくりの会

：面積は小さく人口規模は地域自主組織の中で平均くらいの地域自主組織が4つであり、後継者の課題もある。市の連絡協議会でも地域自主組織職員は60歳前半を目安にと言われているが、現在は70歳の前半まで仕事をされるのでその後地域活動される方は少ない状況。

斐伊地域づくり協議会

：斐伊地区は人口が増えており後継者について危機感が少ないと感じる。処遇だけの問題ではなく、

65 才、70 才の定年退職後はおっくうになり地域自主組織で働いてもらえない。地域のイベント等には参加してもらえぬが地域のために職員としては難しい。

地域自主組織「ダム湖の郷」

：10 月 2 日にチェリヴァホールで開催される島根県公民館研究集会で地域の担い手対策について事例発表する。

斐伊地域づくり協議会

：山間部の地域自主組織とは地域の担い手について危機感がここまで違うのかと思った。

地域自主組織「ダム湖の郷」

：話は違うが、敬老会組織ことぶき会はまだあるのか

新市いきいき会

：下熊谷や西日登にはあり町部は全部解散した。

地域自主組織「ダム湖の郷」

：名称を変えてはどうかイメージが悪いのでは。

新市いきいき会

：老人会の活動している方は熱心に活動しておられる。名称の問題ではないのでは？65 歳で誘うとまだ仕事をしておられ入ってもらえない。

地域自主組織 日登の郷

：地域自主組織の中に老人クラブを組織として入れることはできないか。

市 長)

：市から老人クラブへの補助金と地域自主組織への補助金の使い分けに注意する必要がある。

八日市地域づくりの会

：10 月 14 日にきすき駅フェス 2024 があり駅前でミニ SL を走らせようとした際、JR 木次駅から NG が出た。あめつちの手振りや地域での利用に木次線利用して協力しているが、最近杓子定規な事を言われるようになりいかがなものかと思う。

三新塔あきば協議会

：先日仕事の一環で JR 松江駅でチラシを配った。副駅長に依頼したところ今年は「駅の出入口では運動しないでくれ」と言われた。そうするとテルサの出入り口のところしかなかった。去年までは許可が出ていたが、木次駅ばかりではなく JR の考え方がここ 1 年で変わってきたのを感じた。

八日市地域づくりの会

：スローモビリティを運行していた時に JR 木次駅の入り口でも乗れるようにと市の担当者から JR 木次駅に相談してもらった際時刻表を置くなら占用料が必要とのことでやめた。杓子定規であり・民間企業なので仕方ないかもしれないが話し合いで解決できないか。

市 長)

：説明をすることはできる。JR 西日本の組織改正を見てもらうと以前の木次鉄道部はなくなり、木次は駅長のみ。意思決定は米子、そして広島に移りどんどん集約化の方向、地方での権限がなくなり、本社ルールとなり都会の感覚で回答され非常に対応しにくい。あきらめずに依頼するしかない。

三新塔あきば協議会

：平成 23 年に雲南市は台湾と友好協定を結んだが現在はどうのような状況か。

市 長)

：台湾とは現在行き来をしている。お米を扱う業者さんの縁があり結びつきができた。当初は雲南市内の高校生が台湾へ行くことから始める計画だったが円安により三刀屋高校・大東高校は断念。今年は掛合分校が台湾へ行く。今後は観光でツアーなどを計画したい。昨年度台湾の市議会議員が雲南市に来られた。タイミングが合えば雲南市議会議員にも台湾へ行って頂きたい。

斐伊地域づくり協議会

：三刀屋にはホテルも建設され飲食店も出店されている。斐伊には食事をするところがない。市役所の職員駐車場跡地がアパートになり斐伊に飲食店ができるとよい。都市計画で誘導できるようにならないか。

市 長)

：飲食系は人の流れや地価などさまざまな要因がありポツンとの出店はない。現在コトリエットが中心となっている。斐伊は大きな企業がありアパートが増えている。そこで飲食店をということもあるかもしれないが商圈的に難しいのではないか。三刀屋と木次駅周辺に集約している。

地域自主組織の役割についてだが、環境によってかなり違う。最低限お願いしたいのは地域のコミュニティの維持。熊本地震の際、避難所運営のルールは完全な自治であった。一番根本は地域の自治という仕組みを維持してもらう事と考える。

新市いきいき会

：躍動鍋山は 4000 万円の予算。地域自主組織が最低限やるべき活動の線引きはあると思う。

市 長)

：今後若い人が地域に入り活動に取り組む場合もあると思う。地域の自治の仕組みは残さないといけない。

八日市地域づくりの会

：市の連絡協議会と市長との意見交換会のやり方はいかがなものか。各町の要望などではなく各地域自主組織に共通する課題や話題、各町全体に関することについて市長と意見交換すべきと考える。

～15:00 終了